

太陽の子

令和8年(2026年) 7月 No.196

夏の号

発行



日上市助川町5-14-8
TEL(23)2620 FAX(33)9150
ホームページ <http://www.taiyonoie.com>
Eメール npo@taiyonoie.com
NPO法人 日立太陽の家
日立重症心身障害児(者)を守る会
日立太陽の家支える会



親子研修旅行で鉄道博物館へ行ってきました。間近で見る大迫力の展示車両にみんな目が輝いていました。(ひまわり学園)

人生は一度きり

日上市太陽の家 管理者 菊地 祐二

ロシアとウクライナの対立、そして米国とイスラエルとイランの対立等、今、世界で起こっている武力抗争の数は50以上へのぼり、年間20万人以上が命を落とされています。その中には、巻き込まれた民間人や子ども達も多くいて、人々に想像もつかないほどの被害と苦痛をもたらしています。

重症心身障害児者を守る太陽の家で、「命の尊さ」を身にしみて体験し「最も弱いものを一人ももれなく守る」基本理念と共に、生きる権利と幸せを願い続けてきました。人の命は砲弾で一瞬にして失うものではないかけがえのない命です。戦争ほど悲惨なものはないと思います。

太陽の家の利用者を通してアドバンス・ケア・プランニング(人生会議)を知りました。人生の最終段階で本人やその家族の意思を尊重した医療・ケアを行えるようにするために実施するものです。利用者のかかりつけ医から講演を拝聴する機会をいただき、多くの利用者家族と法人職員が参加しました。医師は、終末期医療と捉えるのではなく、この人ならどんなふうに住きたいか、何を大切にしたいか、どこで過ごしたいのか、何が不安でどんな医療・ケア支援があれば家族が安心できるのか、本人と家族、医療従事者がその人らしい生き方を考え、話し合える医療・ケアであると話されました。人生は一度きり、利用者やその家族の思い、人生観や価値観に違いはあっても、安心できる環境で豊かな人生の実現に向け、共に支え合い寄り添い歩んでいきたいと思っています。

私達は幸い戦争のない平和な日本に住んでいます。美味しいものを食べ、ゆったりお風呂に浸かれる、澄みわたる青い空が心地よく、「ありがとう」の言葉に癒やされ、利用者の笑顔が見られた時等々、小さな幸せを身近に感じながら自分らしく人生を大切に生きていきたいと思う今日この頃です。

職員リレー

人と人

日立市ひまわり学園

井下 聖也

私は昨年度10月末日よりひまわり学園に入職しました。日立太陽の家で障害福祉という分野に初めて携わることになりましたが、幼少の頃より父母共に障害福祉施設に従事しており、障害のある方達と関わる機会は少なくありませんでした。

縁あってひまわり学園に配属され、はじめに感じたことはコミュニケーションの難しさです。言葉でのコミュニケーションが苦手な利用者もいます。言葉が理解できても私が意図した意味で伝わっていない場合もあります。例えば「お手洗いはどうしますか?」と、ある利用者さんに声を掛けました。そうすると席を立ち水道に向かい手を洗ってくれました。私はトイレを促したつもりでしたが、声掛けの仕方、言葉の選び方が悪く伝わってしまいました。その経験は「次はこのように声掛けをしてみよう」「このような言葉を選ぼう」と考え

るきっかけとなり、学びに繋がりました。

言葉選びも含め改めて、人と関わる仕事は学びが深く、とてもやりがいのある仕事だと感じていきます。日々の関わりの中で前職の理事長の言葉を思い出します。「人と関わる仕事は、無償の気持ちで行いなさい。人が鉢だとすれば世界には様々な形の鉢があります。その中には誰も種を持っていて、私たちは無償の気持ちで愛情・思いやりという水を与えます。鉢は底が深い方も知れませんが、すぐに水があふれる鉢もあるでしょう。ひびや穴が空いていて注ぎ続けても満たされない鉢もあります。それでも私たちは無償の気持ちで水を与え続けます。いつか芽が出て花が咲き私たちに喜びを与えてくれるかもしれない。」という言葉です。利用者の皆さんは素晴らしい鉢を持っていきます。その中には今まで関わってきた人々、保護者からの愛情・思いやりの土壌があります。私も愛情・思いやりという水を日々注ぎ続け、利用者の皆さんの美しい花を見たいと思います。すぐに結果が出

る事ではありませんが、10年、20年、さらにその先に咲く花を楽しみに、利用者の皆さんと関わっていききたいと思えます。

はじめまして

日立太陽の家居宅介護事業所

久下谷 愛美

はじめまして、このたびは縁があり、太陽の家の一員として働かせていただけることになりとてもうれしいです。

実は小学校の頃この場所と出会ったことがきっかけで福祉の仕事に興味を持ち、いつかここで働けたらいいなとずっと心のどこかで思っていました。今回こうして働けることになり、長く思い続けてきた場所で働けることに夢が叶ったような気持ちでいます。

これまで障害者支援施設で支援員として15年、その後は高齢者デイサービスでも3年ほど経験してきました。人と関わるのが好きで、明るさを大切にしながら利用者さんに少しでも笑顔になっていただけるよう関わってきました。

改めて初心を大切にしながらみなさんとたくさん笑い、楽しく過ごしていきたいと思っています。

まだ分からないことだらけですが、少しずつ覚えながら頑張りますのでどうぞよろしくお願ひします。

よろしくお願ひします

日立市母子療育ホームO.T

小泉 千春

5月より入職しました。作業療法士の小泉千春といいます。高校卒業後、作業療法士の養成校に通う為に日立を離れましたが、結婚と出産をきっかけにこちらに戻ってきました。

我が家には、常陸太田特別支援学校の小学部に通う息子がおります。息子を育てる中、色々な方に支えられ、励まされてきました。その中で、いつしか自分も作業療法士として携わりたいと考えるようになっていきました。そんな中、息子の繋がりでこちらを知り、働かせて頂く流れとなりました。

約9年間の休職に加え、前職が成人の回復期リハと全く異なる分野であったことから、作業療法士としては、まだまだ勉強中の身です。ですが、少しでも早く貢献できるように、励んでいきたいと考えております。よろしくお願ひ致します!

入職のご挨拶

日立市ひまわり学園

蓬田 倫之

この5月にひまわり学園の職員として勤務を始め1か月ほどが経過いたしました。学園の皆さんお一人おひとりの個性に触れながら、その方らしい学園生活を支えること、難しさを感じる毎日です。

最近では送迎バスの添乗業務にも少しずつ携わるようになりまして。これまで学園内でお会いすることが中心だった利用者の皆さんが、地域の中で暮らし、ご家族や地域のつながりの中で日々の生活を送られていることをあらためて実感しました。また、学園に通うことも利用者の皆さんの日々の暮らしを形づくる大切な一部であることを感じていきます。

まだまだ学ぶべきことがたくさんありますが、利用者の皆さんとの関わり方、職員同士の連携の大切さ、諸先輩方からのご指導を通じて福祉の仕事の奥深さを感じております。これからも一つひとつの経験を大切にしながら、利用者の皆さんに笑顔で過ごしていただけるよう努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

笑顔と感謝

令和8年度を迎えてのご挨拶

日立重症心身障害児者を守る会会長 藤 枝 利 彰

日頃より日立守る会会員の皆様、及び日立太陽の家の職員・関係者の皆様方には、守る会へのご支援を賜り心より感謝申し上げます。昨年度は守る会の総会や研修会に、ご参加いただき誠に有難うございました。

令和8年度の主な行事
①日立重症心身障害児（者）を守る会総会開催

・令和八年四月十八日（土）に来賓四名、会員十三名日立太陽の家職員二名の参加にて開催されました。
・令和七年度の事業、決算報告・令和八年度の事業計画、予算等が審議され承認されました。

・日立市保健福祉部障害福祉課の担当者様より『日立市の障害者の状況について』の講演があり大変参考になり今後の活動等に役に

立てたいと思っております。

②茨城県重症心身障害児（者）を守る会総会開催（東海村総合福祉センター「絆」）
・令和八年五月十六日（土）に来賓六名、会員他十五名、合計二十名の参加で開催されました。

・令和七年度事業報告・収支決算報告*令和八年度事業計画説明・予算説明等が審議され承認されました。
・茨城県福祉部障害福祉課の担当者より『茨城県の障害者施策の動向Ⅱ第三期新いばらき障害者プランの推進と最新施策』についての講演がありました。

③日立太陽の家奉仕作業・令和八年六月十三日（土）〔前半〕*十月十日（土）（施設合同研修会）
④第五十七回日立市ふれあ

い運動会・令和八年十月十七日（土）

⑤全国重症心身障害児（者）を守る会 第三十六回関東・甲信越ブロック大会が千葉県千葉市で開催・令和八年十一月十四日（土）〔内容：式典、基調講演、分科会他〕
⑥その他（日立太陽の家主催クリスマス会・研修会等予定）

⑦日立守る会・日立太陽の家合同にて旅行計画
・行き先「東京デイズニード」・期日「令和八年十一月五日（木）」で検討中
・会員の皆様へ久しぶりの旅行ですので、是非参加して頂き楽しい思い出にして頂きたいと思えます。「旅費等は守る会で負担予定です」

以上が令和八年度の主な行事ですので、会員の皆様のご協力をお願い申します。さて、守る会の現状をみますと全国的にも茨城県支部においても、親の高齢化が進み会員減少に歯止めがかからない状況が続いております。また、茨城県支部・日立分会でも役員になつてくれる方がおらず、会員の

皆様に協力頂き、困難に立ち向かっていく地道な活動を行っていくしかありませんので会員の皆様とお

好きなものに囲まれて

日立市太陽の家 保護者 櫻岡 由紀子

水戸特別支援学校を卒業して最初はひまわり学園、その後太陽の家にお世話になり5年余りが過ぎました。その間に予想していなかった胃の手術があり、胃ろうを造設、思うように食べられず心配する日が続きましたが、今は以前のように口から好きなものを食べられるようになりほっとしています。施設にも再び元気に通えるようになり、私も安心して送り出せるようになりました。いつも里緒のためにいろいろと考え楽しませてくださる職員の皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな里緒ですが、小さい頃はアンパンマンや妖怪ウォッチが大好きで、毎日のように夢中になって見て

互いに不安や困難を乗り越っていきたいと思います。是非、皆様の協力のほど宜しくお願いいたします。

(次頁へ)



アニマルプランターを製作中。焼き板の磨き作業では、真っ黒になりながらも一生懸命に取り組んでいます。
(しいの木学園)



グループ活動でお買い物に行きました。朝の挨拶から元気いっぱい、美味しい食事にお土産もたくさん買いました。
(太陽の家)



遠足で水族館に行ってきました。いろいろな魚をみたり、ご飯を食べたり楽しい時間が過ごせました。
(母子療育ホーム)



2階にある住まいにも安心安全に気遣いながら送迎を行っています。
(日立太陽の家 居宅介護事業所)

※写真撮影時のみマスクをはずしています

○次の方から寄付を頂きました(敬称略) 三月〜五月
黒澤弘明 金澤博美
佐藤芳昭 藤枝利彰

ご寄付ありがとうございました

◎二〇二六年度
NPO法人日立太陽の家
利用者総数 三百八十二名
男性 二百一十九名
女性 百六十三名

お知らせ

(前頁より)
ところもついていていい感じ
です。里緒にとって推しの存在は、生きる楽しみであり、私たち家族の大切な共通の話題になっているように思います。好きな芸人さんやちいかわの話をする
と自然と会話が弾み、家族と一緒に動画を見たり、グッズの話をしたりする時間も増えました。共通の楽しみがあることで、日々のコミュニケーションもより豊かになったように感じています。さて、里緒は次に何にハマるのか、今から楽しみにしています。

夏祭り、花火、キャンプ、水遊び、童心に返り思い切り楽しむのいいかな？
編集後記
(K記)

鳩が丘マルシェ (ハトマル)
開催
場所：鳩が丘さくら福祉センター内
1F・多用途ホール
日時：9月19日(土曜日)
10時から14時予定

日立太陽の家支える会
日立太陽の家ボランティアグループ
澤島供弘・京子
有馬郷子 小林好子
○次の方から物品の寄贈がありました
(敬称略) 三月〜五月
椎名将光 葛西紀子
村田啓子 遠藤悟
大森健二 菅野良樹